

① 学習指導案

プログラム	No. 5 「地域かるたをつくろう」
単元名 (全 時間)	「カラフル 三保のまち ～三保かるたをつくろう～」 (全 20時間)
学習のねらい	子どもたちが身近な地域や学校の魅力に気付き、自分たちの住むまちが大切な場所であることを実感できるようにする。
学習内容	<p>1 (課題の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む三保のまちにはどのような魅力があるか考える。 発見した魅力をたくさんの人に知ってもらおう大切さに気付き、どのような方法で知らせるか考える。→かるたの活用 <p>2 (情報の収集)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までに関わった地域の人や、社会科でのまち調べの経験から、地域の魅力について思い出す。 関係する人や場所にインタビューをしたり、調査をしたりして情報を集める。 <p>3 (整理・分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューや調査を通して分かったことをまとめ、自分が紹介したい魅力は何か考える。 紹介したい魅力が伝わるかるたを考え、作成する。 <p>4 (まとめ・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の学年に調べて分かった地域の魅力を伝え、これからの学習に生かしてもらおうようにする。 それぞれが考えたかるたを見せ合い、読み札と絵札の最終確認をする。 <p>→完成したもので遊ぶ</p>
参考資料 準備品 実施場所等	<ul style="list-style-type: none"> 見本になるようなかるた 学校の昔が分かる本 (記念誌など) iPad まちの寺や神社、田んぼや畑など

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導
1	<p>「カラフル 三保のまち」 総合的な学習のスタート</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような活動をしたいか思いをもち、これからの活動の意欲を高める。 	<p>○学年横割りで5つのグループに分かれ、それぞれのチームで活動する。(大豆チーム・プレイパークチーム・生き物チーム・道の安全チーム・歴史チーム)</p>
2	<p>三保のまちにある魅力について考え、かるたにして伝えるというめあてをもつ。</p>	<p>○相手意識や目的意識を明確にもてるようにする。</p>


3	これからの活動の計画を立てる。	○どのような人に聞いたり、どのような場所にインタビューに行ったりするとよいか、考えられるようにする。
4 ～ 1 2	計画をもとに、インタビューや調査を行う。 ・学校のことに詳しい先生へインタビュー（副校長先生） ・地域の寺の住職さんにインタビュー、寺について調査 ・地域の田んぼや畑で仕事をする方へのインタビュー ・長年三保のまちに住み、まちの歴史について詳しく知る方へのインタビュー ・地域の里山交流センターへ調査に行く。	○身近な人や場所から少しずつ広げていけるように活動の流れを組む。 ○子どもたちが主体的に活動できるよう、インタビューのアポ取りや質問内容等も自分たちで行えるようにする。 ○分かったことを振り返りカードやiPadに残しておくようにする。
1 3 ～ 1 9	調査して分かったことをまとめる。自分が紹介したいまちの魅力について考え、かるたの読み札と絵札をつくる。	○どのような魅力を紹介したいか、キーワードを絞るよう声掛けする。 ○「五・七・五」の形になるように伝えたいことを絞る。
2 0	二年生に今までの活動やまちの魅力について発表を行う。	○自分たちが活動してきたことやまちの魅力が分かりやすく伝わるよう、写真や実物を用いて発表ができるようにする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立三保小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	「カラフル 三保のまち」総合の学習のスタート ・どのような活動をした いか思いをもち、これからの活動の意欲を高める。		学年で5つのグループに分かれ、自分たちが興味・関心のある内容で学習ができるので、これからの活動を楽しみにしている様子だった。
2	教室	三保のまちにある魅力について考え、かるたにして伝えるというめあてをもつ。 ・今までの学習や経験から、今回の学習を通してどんなことを目標にしたいか具体的に考える。		活動のめあてで真っ先に出たのは、自分たちの住むまちのいいところ(魅力)をもっとたくさんの人(学校や地域の人)に知ってもらいたいという思いだった。そのためどんな活動をし、最後にはどんな形で伝えたいかイメージし、意欲をもっている様子だった。
3	教室	めあてに向けて、これからの活動の計画を立てる。 ・情報を集めるためにどんな人や場所について調べるとよいか考える。		これまでの学習や経験から、地域でお世話になった方や、生活科の学習等で馴染みのある場所など、具体的な人や場所に気付いていた。
4 ～ 12	教室 校長室 旧城寺 里山交流	活動計画をもとに、地域の方にインタビューをしたり、実際に現地に行ったりして、情報を集め		インタビューをする際には、事前に学校から子どもたち自身で電話を

	センター	る。	  <p>地域の寺「旧城寺」の調査 ・インタビュー</p>  <p>地域に長く住む方から、ま ちの歴史についての話</p>  <p>地域の里山交流センター への見学</p>	<p>したり、インタビュー当日も自分たちで進行したりすることで、主体的な活動につながり、達成感が得られているようだった。</p>
13 ～ 19	教室	調査やインタビューを通して気付いた、自分が紹介したいまちの魅力について考え、かるたの読み札と絵札をつくる。		調査やインタビューを通して知ったことの中から伝えたい魅力は何か考えると同時に、「五・七・五」の形に

				するのが少し難しい様子だった。キーワードを絞るようにアドバイスすると、だんだんこつをつかみ、かるたの読み札を生き生きと作っていた。
20	2・3年生の教室	活動したことや発見したまちの魅力を二年生に伝える。		来年度の新三年になる二年生が総合の学習に意欲をもったり、自分たちの活動の計画を立てたりすることができるよう伝えられたことで、子どもたちも満足げな様子だった。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年横割りで活動したことで、自分が選んだグループで活動ができ、子どもたちの意欲につながると同時に、担当する教師もより深く探求することができた。 ・子どもたちが主体的に活動できるよう、めあてや活動の計画を全体やグループで話し合わせたり、インタビューや調査の連絡も子どもたち自身で行ったりした。 <p>→意欲的に活動する児童が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にどのような魅力があるか、教師もよく考えることで、子どもたちにも活動の見通しをもたせることができた。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年生のかるた作りということで、伝えたいことを「五・七・五」で表すことがそもそも難しかった。 <p>→伝えたい内容を短くまとめる難しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵札も個人によって絵に差があり、指導が難しかった。 <p>→全て写真にすることも考えたが、伝えたい内容によっては写真がないこともあり、難しかった。</p>

(3) 児童の反応

初めての総合的な学習で、自分たちの活動したことが形に残ったり、他の学年や職員から声掛けをしたりしてもらうことで、達成感や喜びにつながっていた。また、グループに別れての活動だったため、活動を自分事として捉え、意欲的に活動する姿が見られた。引き続き体験を伴う活動や、成果として残る活動をしていくとよいと感じた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

グループごとに課題を設定して活動を行ったため、教師自身も探求課題に対してより詳しく調べたり、見通しをもったりすることができ、結果的に子どもたちの充実した活動につなげることができた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

総合的な学習の計画を立てる際、児童の実態に合わせて、どのような課題を設定するか、また、どのような活動が考えられそうか、教師側でしっかりと見通しをもち、学習を進めていくことで、活動が充実したものになると感じた。そのためにも地域の材についてよく考え、学習に生かしていく姿勢が大切だと感じた。